

一般第3回入学試験 サンプル問題
国語 英語 数学

國學院高等学校

国語

一 次の傍線部と同じ漢字を含むものを、それぞれ後の選択肢から一つずつ選び、番号をマークしなさい。

(1) 無駄を省いてコウリツよく家事をこなす。

- ① 大学のコウギに出席する。 ② 親が元氣なうちにコウコウする。 ③ 大雨のせいでコウスイが起きる。
④ 契約はあと一年でシッコウする。 ⑤ 彼はコウマンな心の持ち主だ。

(2) 友人をパーティーにシヨウタイする。

- ① 指示があるまで自宅でタイキする。 ② 環境問題をテーマにタイダンする。 ③ タイスイ性に優れた素材を開発する。
④ 悔し紛れにアクタイをつく。 ⑤ 許可を得て原簿をタイシユツする。

(3) 問題が発生してもレイセイに対処する。

- ① 彼と私はドウセイ同名だ。 ② しばらく事態をセイカンする。 ③ おしかける観客をセイシする。
④ 山賊をセイバツする。 ⑤ 小学生がイッセイに下校する。

(4) 自分の弱点をコクアクする。

- ① 名著をツッコクする。 ② 真実をコクハクする。 ③ 登山隊が美しいケイコクを歩く。
④ 事件をコクメイに記録する。 ⑤ 豊かなコクソウ地帯が広がる。

(5) 万々に備えてホケンをかける。

- ① タンケン隊がアマゾンの奥地に入る。 ② ケンゼンな発達をとげる。 ③ あの男の目つきはインケンだ。
④ 選手とコーチをケンニンする。 ⑤ この事業計画にはケントウの余地がある。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

旧棧橋の下に降り、英雄は海水で顔を洗った。

頬が切れているのか、海水が沁みた。痛みに歯を食いしばると、下顎がぐらつくような感触がした。指を口に入れてみた。歯が一本浮き上がっている。英雄はその歯を指に力を込めて引き抜き、海に投げ捨てた。ちいさな波紋に自分を殴りつけた香次郎の顔が浮かんだ。無性に腹が立つて、英雄は水面に唾を吐きかけた。

背後から、水天宮へ初詣にくり出す参拝客たちの喧騒が聞こえてくる。

太鼓の音が響いた。物見矢倉の上に篝火が燃え立っている。露店のカーバイトの灯りが横一列に並んで、古町の方まで続いているのが見える。

英雄は兵児帯を解いて顔を拭くと、着物を整え、帯を締め直した。右の袖は肩口まで裂けている。おまけに素足だった。

兄ちゃん、英雄兄ちゃん、背後から声がした。正雄の声だった。黒い影が新町の方から、こちらにむかつて近づいて来た。

英雄は棧橋に上って、近づくと影にむかつて声を上げた。影はいったん立ち止まったが、英雄が再び呼ぶと、影は勢い良く走り出した。

「兄ちゃん。ずいぶん探したぞ」

正雄は息を切らせながら棧橋に下りて来た。

「正雄、済まんが、家から俺の服とナップザックを持って来てくれ。それと靴も忘れんでくれ。こんな恰好じゃ、ほいと間違われてしまうからの……」

英雄は言つて、正雄に白い歯を見せた。

「お母やんが家に戻つて来てほしいと言つとる。お父やんは土佐屋へ出かけたから大丈夫じゃ」

「俺はもう、あの家に帰るつもりはない。ズボンとジャンパーはどこにあるか、小夜に聞けばわかる。それにナップザックと靴じゃ。」

正雄、御袋に見つからんようにしろよ」

「けど、お母やんも泣きながら辰巳開地の方へ探しに行つとるぞ」

正雄が顔を曇らせて言った。

「いいから、俺の言うとおりにしてくれ。御袋が戻る前に取つて来てくれ。いいな、約束だぞ。俺は、その漁師小屋で待つとるから、頼んだぞ」

英雄は正雄の肩を掴んで言った。正雄は黙つて頷くと、古町の方へむかつて走り出した。

正雄は、すぐには戻つて来なかった。

英雄には正雄を待つ時間がひどく長く感じられた。漁師小屋の網の上に横になって、殴り合った時の斉次郎の顔を思い出していた。自分を殴りつけた時の斉次郎の目は、今まで見たことがないほど凶暴なものだった。あの時、源造たちが止めに入らなければ自分はどうなっていたらろうか。冷たいものが英雄の背中を走り抜けた。やはり力では、まだ斉次郎に敵わないのだろうか。

——これでいい。これで俺はもうあの家へ帰らなくても済む。

小屋の天井を見つめながら英雄は呟いた。その天井の薄闇に、絹子の歪んだ顔があらわれた。涙を流しながら、泣き叫ぶ絹子を思うと、英雄の口の中に苦いものがひろがった。

——ああするしかなかったんだ……。

絹子は、あれから斉次郎に叱責されたのだろうか。英雄は大きく溜息をついた。

表で人の声が出た。英雄は起き上つて表の気配を窺つた。女の笑い声に男の声が重なつた。声は少しずつ遠去かつて行つた。

——一体何をしてるんだ、正雄は……。

英雄は苛立つて来た。こんな恰好では列車にも乗れないし、第一、金はナップザックの中に入れてままである。どうしたものかと英雄は思案に暮れた。加文先生の顔が浮かんだ。もう少し待つて正雄が来ないようなら、先生の家へ行つて汽車賃を借りようと思つた。英雄はまた溜息をついて、網に凭れかかった。……

英さん、英さん、か細い声が表でした。

英雄は起き上つて小屋の板戸を開けた。外に絹子が立つていた。絹子の背後には、身を隠すようにして正雄が控えている。

「正雄、おまえは約束を守れんのか」

「けど、お母やんが……」

正雄がうつむいて言った。

「俺がおまえとした約束を破つたことがあつたか。何じゃ、おまえは……」

絹子は近づくと、英雄の手を取つて言った。

「英さん、正雄を叱らないで。私が無理遣り、正雄に問い糺したんだから……。英さん、お願いだから家に戻つて来て頂戴。私が父さんに謝つて許して貰うから。あなたも父さんも悪くないの。母さんが皆悪いんだから……」

英雄は絹子の手を払った。

「親さんが悪いんじゃないよ。あんなふうにはか話ができない親父が悪いんだ。力で何もかも押し伏せようとする親父が悪いんだ。俺はもう、あの家には戻らない」

「英さん、そんなふうには考えないで。父さんもいきなりあなたに話をされたから、興奮なさったのよ」

「そうじゃないよ。親父はずっとそうなんだ。親父のことはもういいよ。俺のことは心配しなくていいから、ひとりでやつて行けるから。着替えをおくれ」

絹子が持った風呂敷包みを英雄が取ろうとすると、絹子は包みを両手で抱きしめ、

「英さん、お願い。母さんが父さんと話し合うから。英さんのやりたいことをさせて貰うようにするから、家を出るなんて言わないで……」

「もういつて……」

英雄は語気荒く言うと、絹子が胸に抱いている包みを奪おうとした。その手を正雄が掴んだ。⁽²⁾正雄の目が英雄を睨みつけていた。

「何だ？ 正雄」

英雄は正雄を睨み返した。

「兄ちゃん、お母さんが可哀相じゃ」

「何もわかつたらんのに、黙つてろ」

「いや、俺はわかつてる」

英雄は正雄の胸倉を掴んだ。

「やめなさい。どうしてあんなにまでが争わなきやいけないの。わかつたわ」

絹子は目頭を指で拭つて英雄を見た。

「着替えはここに入つてるわ。でも約束して頂戴。このまま東京へ戻つたらら大学へはちゃんと行くつて……。連絡が取れるようにしておくつて、それを今約束してくれるなら、母さん、黙つて今夜は英さんを見送るわ」

そう言つて絹子は風呂敷包みを英雄に差し出した。

英雄は黙つて包みを受け取ると小屋に入った。英雄が着替えて出て来ると、⁽³⁾絹子は入江の岸に立つて水面を見つめていた。

絹子はゆつくりと振りむき、英雄に封筒とナツプザックを差し出した。

「汽車賃が入つてるわ。それとこの中に、お握りとお餅と下着の替えを入れといたから……」

「汽車賃ならあるからいいよ」

「いいから持つて行きなさい」

絹子が険しい顔をして言つた。英雄は封筒を受け取るとナツプザックに入れた。

「正雄、英雄兄さんを駅まで送つてあげなさい」

「いいよ、正雄。御袋と一緒に帰れ」

英雄の言葉に、

「母さんはひとりで帰れるから……。あなたたちはたつた二人きりの男の兄弟なんだから、ひさしぶりに逢つたんだから、少し話をしながら行きなさい」

絹子は諭すように言つて、先に歩き出した。二人は絹子の姿が菱橋の袂から水天宮の通りに消えるまで見送つた。絹子は一度も振り返らなかつた。

それから英雄は正雄と駅の方角にむかつて歩き出した。

「正雄 おまえはおまえでやりたいことがあつたら、やつてみた方がいいと俺は思う」

英雄は並んで歩く正雄にむかつて言った。

「俺は、兄ちさんと違つて、すぐには行動ができません。それに何をやりたいか考えたこともない。けど……、お父さんやお母さんを、……哀しませるようなことはしない」

正雄は透切れ透切れに言った。

「そうか……。おまえがそうしたいなら、それでええ。正雄、駅まで見送ることはないから家へ帰れ」

英雄は立ち止まって正雄に言った。

「でも、お母さんが駅まで見送れと言つたし……、俺も送つて行きたい」

「いいから帰れ。俺はひとりで行く。なんや送つて貰うとせんのうなる。早く帰れ」

英雄は怒つたように言った。⁽⁴⁾正雄は眉間に皺を寄せてうつむいた。

「サッカー頑張つてやれよ」

英雄が言うと、正雄は頷いてからポケットに手を突っ込み、ちいさな布袋を取り出した。

「兄ちゃん、これ持つて行つてくれ」

「何じゃ、それ？」

「冬休みになつてから、古町の銭湯で薪割りをしたんじや。そんな時に貰つた金じや。俺は金を使うことはないし、兄ちゃんに何もで
きんでおつたから……」

英雄は正雄の顔を見た。鼻の奥が熱くなった。

「馬鹿だな、おまえは。俺はもう東京で働いとるんじや。そんなことをせんでいい」

「いや、ちよつとしかないが持つてつてくれ」

正雄は英雄の手を取つて無理遣り袋を握らせようとした。英雄は正雄の頬を軽く叩いた。正雄は片眼をつぶつて、大袈裟に痛そう
な顔をした。⁽⁵⁾英雄の視界の中で正雄の顔がぼやけだうになつた。

英雄は袋をポケットに仕舞うと、曙橋にむかつて全速力で走つた。背後で正雄の声がした。英雄は初詣の参拝客たちを掻き分けな
がら駅の方へむかつた。ひどく情けない気分だつた。

三田尻の駅舎で朝まで列車を待ち、英雄は再び東京へむかつた。……

(伊集院静『呻へ』による)

問一 傍線部(1)「英雄は大きく溜息をついた」とあるが、このときの英雄の様子として最も適当なものを、次の選択肢から選び、番
号をマークしなさい。

- ① 家から荷物や靴を持つてくるよう頼んだ正雄が戻つてこないことに苛立つとともに、先刻自分を殴りつけた斉次郎の力の強さ
を思い出し恐れる様子。
- ② 斉次郎と殴り合った末に家を飛び出したが、顔を歪ませ涙を流していた絹子が思い出され、絹子のために家へ戻るべきではな
いかと内心戸惑う様子。
- ③ 家から荷物や靴を持つてくるよう頼んだ正雄がいつまでも戻つてこないことに苛立ち、東京へ戻る汽車賃をどう工面したら
いか思案し始める様子。
- ④ 斉次郎と殴り合った末に家を飛び出し、もう二度と戻らないと決心したものの、絹子を苦しめてしまつていることを思い、わ
だかまりが消えない様子。

問二 傍線部②「正雄の目が英雄を睨みつけていた」とあるが、このときの正雄の気持ちに最も近いものを、次の選択肢から選び、番号をマークしなさい。

- ① 先刻は弟の自分に荷物を取りに行かせ、今は着替えを持ってきてくれた母をそんざいにあしらう自分勝手な英雄に対して、反抗せずにいられない気持ち。
- ② 絹子がひたすら帰宅を懇願しているにもかかわらず、母の言葉を語気荒く遮り風呂敷包みを奪おうとする英雄に対して、怒りがこみ上げている気持ち。
- ③ 絹子が父との和解を懇願しているにもかかわらず、父を蔑み、さらには荒々しい態度で母をあしらう英雄に対して、もはや憎悪を抑えきれない気持ち。
- ④ 絹子が謝罪を重ねるにもかかわらず、父とのいさかいの原因をつくった絹子を許せず態度を硬化させる英雄に対して、軽蔑心がわき起こる気持ち。

問三 傍線部③「絹子は入江の岸に立つて水面を見つめていた」とあるが、この表現から読み取れる絹子の様子として最も適当なものを、次の選択肢から選び、番号をマークしなさい。

- ① 英雄が父と殴り合った夫に家から離れていってしまうのがやるせない上に、英雄と正雄までが仲たがいを始め、もはや家族のつながりは修復不能だと落胆する様子。
- ② 引き留めもかなわず英雄が家から離れていってしまうのがやるせない上に、英雄が東京で大学へしつかり通うか信用できず、今夜は見送ると告げたのを後悔する様子。
- ③ 斉次郎と英雄の対立のはざままで疲れ、英雄が家から離れていってしまう結末に落胆し、それならば勝手に一人で生きていけば

いいのだと英雄に愛想を尽かす様子。

- ④ 引き留めもかなわず英雄が家から離れていってしまうのがどうしようもなくやるせないが、今夜は英雄を見送ると決めた以上、努めて心を落ち着けようとする様子。

問四 傍線部④「正雄は眉間に皺を寄せてうつむいた」とあるが、正雄が「眉間に皺を寄せてうつむいた」わけとして最も適当なものを、次の選択肢から選び、番号をマークしなさい。

- ① 英雄から見送りを強く拒まれたものの、絹子の言葉通りにしないと絹子を哀しませることになるので、どうしてよいか分からず困惑したから。
- ② 英雄の助言に対して否定的な返答をしたことが兄の気分を害したのだと気づき、兄の心の機微をつかめない自分が情けなくなっただけから。
- ③ 絹子の言葉通りに、また自分自身の思いとしても英雄を送っていきたいが、英雄からはそれを拒まれ、どうしてよいか分からず困惑したから。
- ④ 英雄の機嫌が悪いのは、先刻自分が睨みつけ、今また助言に対して否定的な返答をしたためだと思い、兄の度量の小ささに失望したから。

問五 傍線部⑤「英雄の視界の中で正雄の顔がぼやけそうになった」とあるが、この表現について述べたものとして最も適当なものを、次の選択肢から選び、番号をマークしなさい。

- ① 自分をまつすぐに慕う弟の振る舞いに接し、英雄が心を打たれて思わず涙をにじませる様子を、間接的な手法によって描くことで表現している。
- ② 自分を慕う弟のけなげな振る舞いに接し、弟を誤解して腹を立てていた己を恥じる様子を、例示的な手法によって描くことで表現している。
- ③ 自分を慕う弟のけなげな振る舞いに接し、幼い頃二人で遊んだ懐かしい過去が脳裏に蘇る様子を、絵画的な手法によって描くことで表現している。
- ④ 自分をまつすぐに慕う弟の振る舞いを前に、英雄が己に情けなさを感じて涙をにじませる様子を、比喩的な手法によって描くことで表現している。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

山城や砦や橋や町の城門のような、重要な建築をおこなうとき、人間は人柱を立てた。美しい女や子供を、生き埋めにしたり、壁に突き込んだり、水に沈めたりすることによって、建築の成功を願ったのである。また何度橋をかけても、崩れ落ちてしまったり、壁がくりかえし落ちるので、人柱を立てて、水の神や大地の神の荒らぶる心を、静めようとした。あきらかに、ここではひとつの敵対関係が、問題になっているのである。(第一段)

建築をおこなおうとするさい、人間は、砦や門や城が立てられることになる「土地の神」だとか、橋がかけられる川に住む「水の神」の、ジェラシーや怒りにたいして、とても神経質な反応をしている。それは、かつて人間がまだ、ヒュシス(自然)の強度の変化

に鋭敏であつた頃には、人間は建築という行為が、ひとつの奪取であり、ラジカルな位相の変化をつくりだす「事件」であると、明確に理解していたからである。(第二段)

人間が大地や水の上になにかを建築しようとするとき、そこでは空間の主権をめぐる、激しい奪い合いが発生しているのである。土地の神や水の神のものであつたときつまり自然状態にあつたとき、そこには大地や水や風などの諸強度の間には、ひとつの動的な平衡が実現され、そこには美しい自然の景観がつくりだされていた。そこに、人間は城や城壁や門や壁や橋を、建築しようとする。人間はそのとき、空間を自然の神から奪い取る。そして、^①そこに位相的なカタストロフィーをもたらすのだ。大地の上、川の上に、人間の知性による建築が、覆いかぶさる。自然な平衡は、暴力的に攪乱され、その上に、人間化された新しいトポロジーが出現するのである。(第三段)

水の神や土地の神は、人間によるその暴力に潜在的な怒りをいだいているのだ。ひとつの土地と空間にたいして、人間と神々は建築をとおして、敵対関係に入る。そのために、建築の作業には支障がおこり、一度つくつた壁や橋も崩れ落ち、またいつたんできあがつたのちも、城壁をたやすく突き崩すことによって、町は敵の手に陥落し、せつかくつくつた池には水が足りないようにして、神々は建築をおこなつた人間への復讐を、つづける。大地や水の上に、なにかの建築をおこなうことによつて、こうして人間はヒュシスとの間に、永続する敵対関係をつくりだしてしまうのだ。(第四段)

つまり、建築は、人間の文化が自然に加える暴力を象徴し、この暴力に敵対して、自然の神々は、人間に超自然的暴力をもつてむかいあうという、文化そのものがはらむ「本源的な暴力」の状況を生む。そして、そこに建物があるかぎり、この相互的暴力の状態は、いつまでも永続する。この不幸な状態に終止符を打つのが、人柱による「供犠(サクリファイス)」なのだ。それは、ルネ・ジラールの言う「暴力の一点集中」を実現する。たえまのない、また際限のない相互的暴力を停止するために、共同体は自分が大切になっているなにかの物を放棄し、排除する行為をおこなう。美女や皇后や子供が運び出されて、満場一致の合意にもとづいて、共同体が

らの排除がおこなわれる。それは、死をもって表現される。際限のない相互的暴力は、犠牲に供せられる物、その一点に集中する。

(第五段)

これによって、⁽³⁾人間の敵対者であり、競争者であった相手は、決定的な形で、社会化されるのである。神々は、差し出された贈り物を、受け取らないわけにはいかないからだ。共同体は自分が大切にしているもののひとつを放棄して、これを神々への贈り物とした。しかも、それを死による破壊によって、徹底的に排除し、放棄してみせたのである。気高い本性をもった神々には、その贈与を受け取る義務が発生するのだ。(第六段)

しかし、サクリアイスの暴力を承認した瞬間、贈与を受け取った瞬間、かつて敵対者であった土地の神、水の神は、決定的な仕方ですべて「社会化」される。荒らぶる力を鎮静させ、気持ちを和らげて、むしろ人間の文化の業を、積極的に守護する存在へと、この荒らぶる神々は変容していく。こうして、人間は大地にたいする主権を確立することができるのである。大地の上に、人間の建築を立て、空間を人間に適したものに變化させ、風や水や土地の諸強度のおりなす自然を、人間による時間の流れる舞台に、つくりかえる自由を得るわけだ。相互的暴力を一点に集中し、犠牲者の聖なる殺害の儀式をおこなう、このサクリアイスの暴力は、そのために「創始的暴力」と、ルネ・ジラールによって呼ばれる。(第七段)

自然の諸力は、人身御供の儀礼によって、社会化された。だが、そうだからといって、人間と自然の間の「本源的暴力」の関係が、すっかりなくなってしまうというわけではない。それは、自然的空間にたいする人間の主権が確立され、荒らぶる諸力が社会化されたのちも、社会体の最深部において作動しつづけている。両者の本質的關係として、それは消えない。建築ができあがり、社会的な主権が創始されたのちも、暴力をはらむ敵対關係は廃棄されないのだ。そのために、毎年の祭りが発生する。祭りは、社会の起源をなす「本源的暴力」から「創始的暴力」への移行を、象徴的に再現する。また、それを語る神話によって、人間の意識には、暴力と敵対の關係が消え去ってはいない、という認識がもたらされる。(第八段)

民俗世界の「再現芸術」である⁽⁴⁾儀礼と神話は、こうして、本源的な暴力を、「媒介された混乱」として、何重ものクッションをつけた上で、常民の意識にもたす動きをすることになる。共同体は、最深部に聖なる殺害の光景をかかえ、本源的暴力を休火山のようにして内包しながら、自然の中に自らをつくりだしていく。したがって、社会は不均衡を本質とし、たえまない社会化のプロセスとして、自分自身をつくりあげている。人柱の儀礼は、共同体が自分の内部にかかえこんだカタストロフの、裸の表現にはかならない。(第九段)

(中沢新一『森のパロック』による)

問一 傍線部①「城や砦や橋や町の城門のような、重要な建築をおこなうとき、人間は人柱を立てた」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の選択肢から選び、番号をマークしなさい。

- ① 美しい女や子供を、生き埋めにしたたり、壁に突き込んだり、水に沈めたりすることによって、建築という行為の成功を願うため。
- ② 人間の建築という行為によって美しい自然が破壊されてしまうことに対する、水の神や大地の神の荒らぶる心を静めようとするため。
- ③ 人間が建築を行い、それに対して神々が復讐をつづけるという構図の中で、神々の意識を生贖一点に集中させ、共同体の成員を守るため。
- ④ 人間が建築という行為によって人間と自然との間に生じた際限のない相互的暴力に終止符を打ち、自然に対する人間の主権を確立するため。

問一 傍線部②「位相的なカタストロフイ」とは、ここでは具体的にどういう事態を指すか。次の選択肢から最も適当なものを選び、番号をマークしなさい。

- ① 神々が人間のつくった壁や橋を壊したり、池に水が入らないようにしたりして、建築の作業を妨げること。
- ② それまで自然の諸物の間に保たれていた動的な平衡が、建築という行為によって暴力的に攪乱されること。
- ③ 相互的暴力に終止符を打つために、共同体が大切にしている物を放棄し、排除する行為をおこなうこと。
- ④ 人間が動的な平衡を攪乱し、それに怒りを抱いた自然の神々が超自然的暴力をもつて人間と向かい合うこと。

問二 この文章における第五段の役割を説明したものとして最も適当なものを、次の選択肢から選び、番号をマークしなさい。

- ① それまでに述べてきた人間と自然との敵対する様相の本質、さらにはこの敵対関係を解消する人柱の働きについて、他の研究者の言説を借りながら、暴力の概念を用いて明らかにしている。
- ② それまでに述べてきた人間と自然との敵対関係の本質に踏み込んで、その解決策を提示するとともに、自説の正当性を裏付けるために、他の研究者の言説を引用している。
- ③ それまでに述べてきた人間と自然との敵対関係の潜在的可能性に言及するとともに、第一段で提起した人柱の果たす副次的な役割を示すために、他の研究者の言説を引用している。
- ④ それまでに述べてきた人間と自然との敵対関係について、その様相を他の研究者の言説を借りつつ構造化し、矛盾点を暴き出して、問題解決に向けた人柱の機能の有効性を説いている。

問四 傍線部③「人間の敵対者であり、競争者であった相手は、決定的な形で、社会化される」とあるが、「社会化」のプロセスを具体的に説明したものとして最も適当なものを、次の選択肢から選び、番号をマークしなさい。

- ① 共同体が大切にしているものを死による破壊によって放棄してみせ、さらに贈り物として神々へ差し出すと、気高い本性をもつた神々はその贈り物を受け取らないわけにはいなくなる。
- ② 共同体の満場一致の合意に基づき、神々は敵対関係の場から排除され、その後荒らぶる力を鎮静させ、気持ちを和らげて、むしろ人間の文化の業を、積極的に守護する存在へと変容していく。
- ③ 共同体が犠牲を払って贈り物を神々に差し出すと、これに対して神々はその気高さゆえに贈り物を受け取らざるを得ず、さらに受け取った瞬間から人間の文化の業を守護する存在へと変容していく。
- ④ 神々の許しを得て、大地の上に人間の建築を立て、空間を人間に適したものに變化させ、風や水や土地の諸強度のおりなす自然を人間による時間の流れる舞台につくりかえる自由を得る。

問五 傍線部④「儀礼と神話」とあるが、これらの果たす役割とはどのようなものか。それを説明した次の文の各空欄に補うのに最も適当なものを、それぞれ後の語群から選び、番号をマークしなさい。

(説明文)

社会の起源をなす【 A 】から【 B 】への移行を再現し、社会体の最深部に【 C 】暴力と敵対の関係が消え去ってはいないことを【 D 】の意識にもたらず役割。

(語群)

- ① 創始的暴力
- ② 超自然的暴力
- ③ 本源的暴力
- ④ 自然と人間
- ⑤ 暴力と敵対
- ⑥ 敵対と社会化
- ⑦ 神々
- ⑧ 犠牲者
- ⑨ 常民

四 次のAは『平家物語』の「教盛の最期」に関する対談の一部であり、Bは原文の一部である。また、あとの□内の文章はBの現代語訳である。これらの文章を読んで、後の問いに答えなさい。

A 竹内 当時、教盛は何歳だったんですか。

黒澤 原文には十七とあるから、いまの十六歳です。

竹内 戦闘の体験も……。

黒澤 ないでしょうね。

竹内 いくら訓練を積んでいたとしても、十六歳では実践、まして最前線で戦える状態ではないですよ。

黒澤 かなりきついでしょ。この一の谷の合戦のしばらく前に、熊谷次郎の息子の小次郎がちよつとした小競り合いで軽いけがをします。熊谷はそれで胸がつぶれそうな思いをするんです。そうしたら、口今組み敷いて首を取ろうとしているのは、その息子とよく似た年ごろの、花のような美少年だった。これは殺せない、と。

竹内 自分の息子とオーバーラップさせてしまうんですね。

黒澤 熊谷の息子は関東で武士として育っていますから、土地争い、水争いなどで小戦闘はよくあるんですが、武家貴族として育った教盛は、そんな世界に身を置いたことは全くない。だから、そのまま戦場を離脱してもよかつたのに、熊谷に呼び止められて引き返してしまつたんです。

竹内 もし実践経験があれば、そんなところに戻れば討ち取られるのはわかっているから、それはちよつと我慢して逃げるほうが……。

黒澤 そうかもしれませんが、それに、教盛はすでに水際からかなりの距離（五、六段ばかり）離れていたのですから……。

でも、やはりプライドが高かつたんでしょ。自分自身が非力だということは知っているはずなもの。

竹内 ^②熊谷にとっては、どう見ても「初陣です」みたいな感じのひよろつとした子が出てきた、といった感じの状況だったんでしょか。

黒澤 呼び返した時点では、そうは思っていないはず。熊谷は、立派な装束を身に付けた将が、水辺から沖の軍船めざして退こうとしている後ろ姿を見ただけです。相手が若年であるのは、組み伏せて首を取るために兜を跳ね上げて、初めて気づくんです。

竹内 そうか、そうか。

黒澤 「取つて押さえて頭をかかと甲を押し仰のけて見れば」、ここでやつとわかる。「年十六七ばかりなるが、薄化粧して、かね黒なり。我子の小次郎が齡程にて、容顔まことに美麗なりければ」と。そこまできく、初めて気づくわけです。「これはまだ少年じゃないか」と。しかも「なんと上品できれいな……」と。「こんな相手をわざわざ呼び返すなんて、ばかことをしちやつた」ということでしょうけれど、もうしようがない。

竹内 すでにもう、組み伏せて首を掻き切ろうかという態勢なわけですね。

黒澤 この後の会話で、^③熊谷はこの若い将をなんとも立派だと感服するんです。「そもそもいかなる人にてましまし候ぞ」——あなたはいついとなたですか、お助けしようと言つて、少年は名乗らないで、「そら、いとおまえはだれだ」と問う。そこで、「たいした者じゃないですけど、武蔵国の住人、熊谷次郎直実です」と言つて、「それでは、おまえに対しては名乗るまい、つまり、そんな格下人間には名乗れないというんです。「おまえにとっては非常にいい敵のはまだから、私の首を持つていけ」と。

竹内 うーん、この状況で、敵に「お前は格下だから、名乗らない」「首を持つていけ」と言える十六歳……、非常時とはいえ

肝が据わっているというか、なんというか……。

黒澤 普通ならば、熊みたいな男に押さえつけられて短刀が目の前に迫ってきているのだから、なんでも言うことを聞いてしま
いそうだけれど、凜とした態度は変わらないんです。つまり、平家の公達としての誇りを、こういう状況になっても失ってい
ない。「おまえに助けられるつもりはない」ということですよ。

竹内 そういうところに、誇りとか美とかいったものを、熊谷は見たんでしょうね。

黒澤 そう。そして熊谷のほうは、やむなく教盛の首を取ったあと、自分のやったことがあまりにも無惨なので参ってしまうん
です。

竹内 出家してしまうんですよね。

黒澤 そうです。「あはれ、弓矢とる身ほど口惜しかりけるものはなし。武芸の家に生れずは、何とてかかる憂き目をば見るべき
とあります。「こんな無惨なことをしなければならぬのも、俺が武士だからだ」ということですね。

竹内 武士として生まれなかつたら、こんな残酷なことはせず済んだのに、と……。

(黒澤弘光 竹内薫『心にグツとくる日本の古典』による)

B 熊谷源を押さへて申しけるは、「助け参らせんとは存じ候けども、御方の軍平雲霞のごとく候ふ。よも逃れさせ給はじ。人手にか
け参らせんより、同じくは直実が手にかへ参らせて、後の御孝養をこそ仕り候はめ」と申しければ、「ただ①とくとく頭をとれ」と
ぞ宣ひける。熊谷あまりにいとほしくて、いづくに刀を立てしとも覺えず、目も昏れ心も消え果て、前後不覚に覺えけれども、
さてしもあるべき事ならねば、泣く泣く頭をぞ強いてんける。②あはれ、弓矢とる身ほど口惜しかりけるものはなし。武芸の家に
生れずは、何とて③かかる憂き目をば見るべき。情無うも討ち奉るものかな」とかきくとき、袖を顔に押し当てて④さめざめとぞ

泣き居たる。

熊谷は涙をおさえて申したことは、「お助け申し上げようとは存じますけれども、味方の軍平が雲霞のようにおります。よもや
お逃げにはなれますまい。他の者の手におかけするより、同じことならばこの直実の手におかけ申して、死後の御供養をいたしま
しよう」と申すと、「とにかく、さつさと首を取れ」と言われた。熊谷はあまりにも気の毒で、どこに刀を立ててよいかわからず、
④目の前も真っ暗になり、正気もなくなつてしまい、前後不覚に思われたけれども、そうしてばかりもいられないので、泣く泣く
首を取ってしまった。「ああ、弓矢を取る身ほど残念なものはない……。武芸の家に生れなければ、どうしてこんなにつらい目にあ
うことがあるのか。無情にもお討ち申し上げたものだなあ」と恨みの言葉を言い、袖を顔に押し当ててさめざめと泣いていた。

問一 傍線部①「今、組み敷いて首を取ろうとしているのは、その息子とよく似た年ごろの、花のような美少年だった」とあるが、
「花のような美少年」を説明したものとして最も適当なものを、次の選択肢から選び、番号をマークしなさい。

- ① 戦場で活躍する力を持っていないが、敵から逃げないプライドの高さを感じさせる姿を形容している。
- ② 薄化粧をして顔かたちが整っていて、勇ましい戦場には似つかわしくないと考える姿を形容している。
- ③ 熊谷次郎の息子と違い、武家貴族として育つているため上品なことを好むであろう姿を形容している。
- ④ 熊谷次郎の息子のように、小競り合い程度で怪我をしそうに見えて守つてやりたくなる姿を形容している。

問二 傍線部②「熊谷にとっては、どう見ても「初陣です」みたいな感じのひよろつとした子が出てきた、といった感じの状況だつ
たんでしょうか」という竹内さんの発言が、この対談の中で果たしている役割を説明したのとして最も適当なものを、次の選択

肢から選び、番号をマークしなさい。

- ① 熊谷次郎が敦盛に対して感じたであろうことを推測し、熊谷と敦盛が向かい合う様子の詳細を知ろうとしている。
- ② 熊谷次郎の息子と比較した際の敦盛の弱弱しさに同情し、敦盛を擁護する方向へ話を展開しようとしている。
- ③ 熊谷次郎に呼び止められて逃げずに反応した敦盛を感かき思い、熊谷の武勇を称えるよう話を進めようとしている。
- ④ 敦盛の身の程知らずな行動には深いわけがあるのだろうと思い、その真意を明らかにするよう話を広げている。

問三 傍線部③「熊谷はこの若い将をなんとも立派だと感服するんです」とあるが、ここでいう「なんとも立派」とはどういうことか。次の選択肢から最も適当なものを選び、番号をマークしなさい。

- ① 敦盛の、助けてやると言われても拒み、自分のほうが格上だと言い放った態度から、豊かな将来性を感じたということ。
- ② 年上の敵将にすこまれても気後れせずに堂々と立ち向かった敦盛に、若年ながらの自尊心を感じたということ。
- ③ 敦盛の首を取るつもりでいたが、深く出家をする意向を表明した敦盛に、戦場の中の美を感じたということ。
- ④ 敦盛の、名乗らないうえに自分を討ち取ることを促すという行動から、平家の武将としての誇りを感じたということ。

問四 傍線部④「目の前も真っ暗になり、正気もなくなってしまう」とあるが、Bの原文において「正気もなくなってしまう」に相当する部分はどこか。次の選択肢から最も適当なものを選び、番号をマークしなさい。

- ① あまりにいとほしくて
- ② 心も消え果てて
- ③ 前後不覚に寤えけれども

- ④ 口惜しかりけるものはなし

問五 文中の―を付けたア～エのうち、現代仮名遣いで書いた場合と異なる書き表し方を含んでいるものを一つ選び、番号をマークしなさい。

英語

1. 日本人の中学生である Rikako は、弟の Daisuke とゴールデンウィークに行く家族旅行について話し合っている。次の表と英文を読み、空所(A)と(B)に入るものの組み合わせとして正しいものを、下のア～エから 1 つ選び、記号をマークしなさい。

Osaka 4-day tour	Okinawa 3-day tour
Price ●Adults 40,000yen ●Children(elementary school and junior high school students) 15,000yen	Price ●Adults 50,000yen ●Children(elementary school and junior high school students) 25,000yen
Features You can have an exciting time! You can enjoy... <ul style="list-style-type: none">• shopping in the city center• eating many kinds of foods• amusement parks	Features You can have a relaxing time! You can enjoy... <ul style="list-style-type: none">• water sports in the sea• walking along the beach• watching many kinds of fish

Rikako : Which one do you want to go to?

Daisuke : I'd love to go to Osaka because it seems so exciting! I want to visit amusement parks.

Rikako : But I don't think Mom likes it. She likes (A) things better.

Daisuke : Yes...

Rikako : And just to be excited, you don't have to visit cities. Didn't you say you wanted to try diving?

Daisuke : Yes, you're right! It will be exciting to do some water sports. And watching various fish sounds like fun! Wow! I can't wait.

Rikako : But the problem is the cost.

Daisuke : Well, Dad, Mom, you and I... There are four in our family, and so it will cost (B) for all of us.

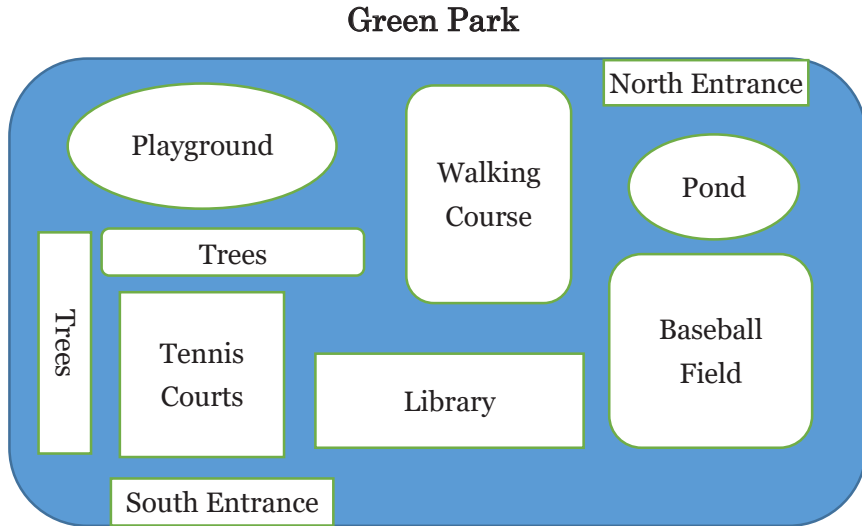
ア (A) exciting (B) 110,000yen

イ (A) exciting (B) 150,000yen

ウ (A) relaxing (B) 110,000yen

エ (A) relaxing (B) 150,000yen

2. Keiko は Jim に電話をし、日曜日に Green Park に一緒に行く話をしている。下の地図と英文を読み、空所(A)と(B)に入るものの組み合わせとして正しいものを、下のア～エから1つ選び、記号をマークしなさい。



Jim: Hello?

Keiko: Hi, Jim. It's Keiko.

Jim: Hi, Keiko. What's up?

Keiko: Did you know there are new tennis courts in Green Park?

Jim: Yes. I often go to (A) next to them. They're nice courts with a lot of trees around them.

Keiko: That's right. How about playing tennis there on Sunday?

Jim: Sounds good! But in the afternoon I have to go to *the supplementary school. I'm free only in the morning.

Keiko: Sure. I'm free on Sunday morning, too.

Jim: Great! Do you come from the entrance closest to the courts?

Keiko: It's far from the station, isn't it? So I'm going to come from (B).

Jim: OK. Then, shall we meet in front of it at eight? We can enjoy walking before tennis.

Keiko: Good. I'm looking forward to it.

(注) the supplementary school 塾

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| ア (A) the library | (B) North Entrance |
| イ (A) the library | (B) South Entrance |
| ウ (A) the baseball field | (B) North Entrance |
| エ (A) the baseball field | (B) South Entrance |

3. 次の記事を読み、あとの問いに答えなさい。

The World's Happiest Cities

When I went looking for the world's happiest people on four different cities, I found some really great places to live!

Singapore

With a population of 5.1 million, Singapore is really *crowded, and people work very long hours. Yet 95 percent of Singapore *residents say they are happy. Subway trains almost always arrive on time. The police are good at their jobs and always ready to help. People in Singapore love that their city is so clean and safe.

Arhus, Denmark

Although people pay an *incredible 68 percent of their *salaries in taxes here, they get lots of services for free: healthcare, education, and daycare for young children. The city has lots of entertainment options too, like museums, shopping, and nightlife. For those who love nature, it's only a 15-minute bike ride to incredible beaches and forests.

San Luis Obispo, U.S.A.

People here smile and feel happy more than in any other American city. Most people travel less than 10 minutes to work, and there are lots of bike lanes, so *commuting is easy. Residents share their joy with others, too. Almost 25 percent of people in San Luis Obispo volunteer to help people in their free time.

Monterrey, Mexico

Although many of its people don't earn high salaries, they still feel rich. People in Monterrey have strong family relationships and very busy social lives. They also have a positive attitude about life – they laugh and stay strong even in times of trouble.

(注) crowded 混雑している resident(s) 住民 incredible 信じられないほどの
salary 給料 commuting 通勤

問 この記事の内容と合っているのは、次のうちどれか。

- ア In Singapore, people are happy because they can easily access to beaches and forests with bikes.
- イ In Aarhus, bikes are so popular that most people use their bikes to go to work or to beaches and forests.
- ウ In San Luis Obispo, it's easy for most people to go to work, and some of them are happy to help others when they are free.
- エ In Monterrey, they pay much to the government, but they try to be cheerful even when things are going badly.

4. 次の対話を読み、あとの問いに答えなさい。

John and Mike are students studying at the same university. They are talking during the lunch time.

John : So, are you still living with your parents, Mike?

Mike : Yes, I am. But sometimes I hope I can have my own apartment.

John : ①Why? Don't you like living at home?

Mike : It's OK, but my parents are always asking me to come home early. I'd like them to stop worrying about me.

John : Yeah, ②parents are like that!

Mike : And, they don't like my friends, and they won't stop *criticizing them. I don't like ③such a difficult life.

John : So, how about moving out?

Mike : I've been thinking about it several times, but where else can I get free *room and board?

John : Yeah, it's sometimes pretty hard to pay the *rent. I'm thinking to find a new *part-time job.

Mike : Really? What kind of job would you like?

John : ④I'm not sure. But I wish to work somewhere else. I'm tired of this place. I want to live in a more exciting place.

Mike : ⑤I know what you mean. We have too much free time here after university. We need more entertainment like a theater, a shopping mall, a ball park, a coffee shop... Hey, maybe we can move to a different city. Shall we share an apartment?

John : Sounds good!

(注) criticize 批判する room and board 下宿 rent 家賃
part-time job アルバイト

問1 ①Why? の内容を、次のように書き表すとすれば、()の中に、下のどれを入れるのがよいか。

Why ()?

ア do you hope to live by yourself

イ do you want to earn money for your parents

ウ do you want a larger room

エ do you hope to stop studying

問2 ②parents are like that の内容を最もよく表しているのは、次のうちではどれか。

ア It's natural for children to go away from their parents.

イ Most parents like to stay with their family for a long time.

ウ It's natural for parents to care about their children too much.

エ Most parents like to stop worrying about their parents.

問3 ③such a difficult life とあるが、Mike がこのように言った理由は次のうちのどれか。

- ア Because he has a lot of difficult homework he can't solve.
- イ Because he doesn't want his parents to say this or that.
- ウ Because it's difficult for him to find a new job.
- エ Because many of his friends are really bad.

問4 ④I'm not sure. の内容を次のように書き表すとすれば、()の中に、下のどれを入れるのがよいか。

- John is not sure ().
- ア how interesting the new job will be
 - イ how kind the people in his city are
 - ウ what type of job he'd like to choose
 - エ what to do after giving up his job

問5 ⑤I know what you mean. とあるが、このように Mike が言った理由を、次のように語句を補って書き表すとすれば、()の中に、下のどれを入れるのがよいか。

- I know what you mean because ().
- ア I know other cities with a lot of jobs
 - イ the university is too close to our apartment
 - ウ there are too many people in this city
 - エ we can't have much fun time here

問6 次の英語の文を、本文の内容と合うように完成するには、()の中に、下のどれを入れるのがよいか。

- Both John and Mike think it difficult to () living in their city.
- ア make
 - イ find
 - ウ go
 - エ keep

問7 次の文章は、Mike と話した日に、John が母親に送った E メールの一部である。(A) および(B)の中に、それぞれ入る単語・語句の組み合わせとして正しいものは、ア～エのうちではどれか。

Today I talked with my friend Mike during lunch time. We talked about (A) this city and finding a new apartment. He suggested sharing a room. What do you think of it? In fact, it will cost less to share a room than to live alone. But living with someone who is not a family member can cause some (B). We've been friends for a long time, but I don't know how he lives at home. I agreed with him once, but I'm thinking of refusing his suggestion.

- ア (A) living in (B) fun
- イ (A) living in (B) trouble
- ウ (A) leaving (B) fun
- エ (A) leaving (B) trouble

5. 次の英文を読み、後の問に答えなさい。

On their first day of college in 1968, Marsha Lockwood and Michael Cramer met. They were both freshmen at the University of Massachusetts, in Amherst. They liked each other *immediately. They learned that they came from neighboring Massachusetts towns; Marsha was from Worcester, Michael was from Shrewsbury. They were only three weeks apart in age. They both had played *instruments in their high school marching bands (Marsha had played the flute, Michael had played the clarinet). Their families had friends in common.

They began to date. They started to fall in love. And they discovered something. They both had grandfathers who worked in the same office building in Worcester. Marsha's grandfather, Hyman Brodsky, was an *accountant. Michael's grandfather, Louis Cramer, was an *insurance man. The two grandfathers were both in their seventies.

The two grandfathers' offices were in the Slater Building, a famous office building in downtown Worcester. They were the two oldest *tenants in the Slater Building. When they had been young boys, they had gone to Hebrew school together in Worcester. They had been good friends all during their child-hoods. As young adults, they had worked in neighboring offices in the Slater Building.

Then, in the 1920s, they had a *feud. It was over a business matter. Hyman Brodsky and Louis Cramer were *furious with each other. They stopped speaking to each other entirely.

They did not speak a word for fifty years. When they would be in the elevator of the Slater Building with other businesspeople, they would talk to the others but not to one another. They would not even look at each other. If they happened to find themselves with just the two of them in the elevator, the two boyhood friends would ride upstairs in total silence. Fifty years of this.

Meanwhile, the romance of Marsha Lockwood and Michael Cramer was growing more and more serious. They graduated from college and took jobs in the Worcester area. And, in 1974, they became *engaged to be married.

Hyman Brodsky and Louis Cramer were riding upstairs in the Slater Building elevator. One of them—no one remembers which one it was—said casually:

“Well, it looks like the kids are going to get married.”

And the other said:

“Yes, it looks that way.”

The silence of fifty years had been broken.

In July of 1975, the month before the wedding, Marsha Lockwood's mother had an engagement party for Marsha. The two grandfathers were invited. It was the first time they had been at a social occasion together in fifty years.

“That was the start,” Marsha *recalls now. “They were sitting next to each other all through the party. I *eavesdropped. They were talking about their days in Hebrew school

back when they were boys. They were talking about how the rabbi* was very strict, and how they had both been afraid of him. Now, the events they were talking about had happened when they were ten years old. Now they were seventy-seven. But it was *as if no time had passed at all.”

There were a number of *prewedding parties for Marsha and Michael, and the two grandfathers attended every one of them. They became fast friends once again; they were *inseparable. They were “Hy and Louie”; anytime anyone looked around, Hy and Louie were talking away with each other.

“Their friendship seemed to grow immediately,” Marsha recalls. “I think it was a case of them realizing that there was no one else around with the same memories they had. They just had each other. And although no one ever said it out loud, it became pretty clear that they had both forgotten what that original terrible *argument had even been about. They both knew it had been a business argument, but neither one of them remembered the *details.”

Marsha and Michael were married; Hy and Louie remained the best of friends. They even looked alike; each was about five foot nine, each wore glasses, each was slightly *overweight, each had a full head of gray hair. When they rode the elevator in the Slater Building, they talked away.

Marsha kept thinking that she and her new husband had changed history in a way. Not *prominent, worldwide history; but by meeting and falling in love, they had changed the personal histories of their two grandfathers—Hy and Louie—and somehow that seemed very important to her.

Hyman Brodsky and Louis Cramer died within a year of each other. Hy died on August 18, 1983; Louie died on August 17, 1984.

When Marsha remembers the two old men, she *envisions that first time they were together again, at the engagement party given by her mother.

“One of them was sitting on a chair,” she says. “The other was sitting on a piano bench. They were bending so close to each other that I think they were actually physically touching. They were having this very *animated conversation. If you hadn’t known about them, you would have thought that they were in the midst of some long conversation that had gone on for fifty years. It was as if they had never stopped talking.

When I think about Hy and Louie, that’s the picture I see.”

(注)	*immediately すぐに	*instrument 楽器	*accountant 会計士
	*insurance 保険	*tenants テナント、借地	*feud 争い
	*furious 怒った	*engaged 約束した	*recall 思い出す
	*eavesdrop 立ち聞きする	*as if ~ まるで~のように	
	*prewedding 結婚前の	*inseparable 離れられない	*argument 議論
	*detail 詳細	*overweight 太った	*prominent 有名な
	*envision 心に描く	*animated 活発な	

問1 Hyman と Louis の 2 人に関する次のア～エの文を、起こった順番に並べ替え、記号で答えなさい。

- ア. They worked in the same building and had a battle.
- イ. They became friends again after their children decided to get married.
- ウ. They were good friends and went to the same school together.
- エ. They stopped talking with each other for about fifty years.

問2 次の(1)～(3)の文を、本文の内容と合うように完成させるには、の中に、それぞれ下のどれを入れるのがよいか。次のア～エから 1 つ選び、記号で答えなさい。

(1) Marsha and Michael started to fall in love and found .

- ア. they had a few things in common
- イ. they had the same future dream
- ウ. their grandfathers knew each other
- エ. they worked in the same office

(2) When only Hyman and Louis were in the elevator in the 1930s, .

- ア. they never talked to each other
- イ. they exchanged a few words
- ウ. they spoke a polite language to each other
- エ. they enjoyed talking about their children

(3) After Marsha and Michael were engaged to be married in 1974, .

- ア. Louis said to Hyman that the two would be married
- イ. Hyman didn't want them to be married because they were too young
- ウ. Hyman and Louis talked with each other for the first time in fifty years
- エ. Hyman and Louis didn't feel nice because they didn't like each other

問3 次の(1) , (2)の質問の答えとして適切なものは、それぞれ以下のうちではどれか。次のア～エから 1 つ選び、記号で答えなさい。

(1) What does Marsha recall now about Hyman and Louis after the engagement party?

- ア. They really enjoyed talking about the past events.
- イ. It was difficult for them to remember the past events.
- ウ. They decided to meet their high school teacher again.
- エ. They were usually friendly but still angry with each other.

(2) Why does Marsha think that Hyman and Louis became good friends again?

- ア. Because they were old enough to accept each other.
- イ. Because they were told to be good friends by their wives.
- ウ. Because they had bad memories and forgot everything they had done.
- エ. Because they were the only friends who had the same memories.

問4 that's the picture I seeの内容を、次のように書き表すとすれば、の中に、下のどれを入れるのがよいか。次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

I always remember .

- ア. the engagement party by my mother because they looked happy to talk with each other again
- イ. the long conversation they had about their business
- ウ. the elevator in the Slater Building because it was the important place for them
- エ. their childhood days because the days were the best for their friendship

数学

1 次の□の中の「1」から「18」に当てはまる数字をそれぞれ答えなさい。

(1) $x=3, y=1$ のとき, $\left(-\frac{1}{2}xy^2\right)^3 \div \frac{1}{3}x^2y^4 = -\frac{\boxed{1}}{\boxed{2}}$ である。

(2) $\frac{1}{\sqrt{2}}\{(\sqrt{12}-3)(2+\sqrt{3})-(\sqrt{3}-\sqrt{2})\} = \boxed{3}$ である。

(3) 2次方程式 $(x+2)^2 - 2(x+2) - 3 = 0$ を解くと, $x = \boxed{4}, -\boxed{5}$ である。

(4) $\sqrt{\frac{240}{n}}$ が自然数になるような整数 n は $\boxed{6}$ 個ある。

(5) 底面の円周の長さが 12π , 高さが 9 の円すいの体積は $\boxed{7}\boxed{8}\boxed{9}\pi$ である。

(6) 5つの整数 0, 1, 2, 3, 4 から異なる3つの数字を選んで3桁の整数をつくる時、偶数は全部で $\boxed{10}\boxed{11}$ 個できる。

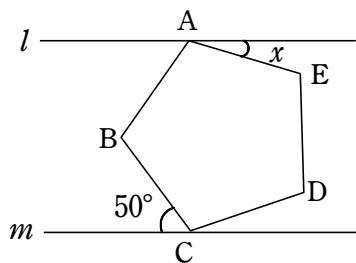
(7) $2 < a < 6$ とする。6つの資料 4, 6, 2, 1, 9, a の平均値と中央値が等しくなる時、 $a = \boxed{12}$ である。

(8) 3つのさいころを投げるとき、出た目の和が5以下になる確率は $\frac{\boxed{13}}{\boxed{14}\boxed{15}\boxed{16}}$ である。

(9) 図1で, $l \parallel m$ のとき, x で示した角の大きさは $\boxed{17}\boxed{18}$ 度である。

ただし、五角形ABCDEは正五角形である。

図1



2

ある中学校で、Kさんが作った問題をみんなで考えた。次の問いに答えなさい。

[Kさんが作った問題]

右の図1のように、上から順に各行2個のマスがある表を作る。すべての行の1列目のマスに a を入れ、1行目の2列目のマスに b を入れる。2行目以降の2列目のマスには、1つ上の行にある1列目と2列目に入っている2つの数の積を入れる。例えば、 $a=3, b=2$ のとき、2行目の2列目のマスには、1行目の3と1行目の2の積である6が入る。

$a=3, b=2$ のとき、6行目にある x に入る数を考えてみよう。

図1

	1列目	2列目
1行目	a	b
2行目	a	
3行目	a	
		⋮
6行目	a	x

(1) [Kさんが作った問題] で、 $a=3, b=2$ のとき、6行目にある x に入る数を求めると、

である。

の中の「19」から「21」に当てはまる数字をそれぞれ答えなさい。

先生は、[Kさんが作った問題] をもとにして、次の問題を作った。

[先生が作った問題]

右の図2のように、上から順に各行に3個のマスがある表を作る。すべての行の1列目のマスに a を入れ、1行目の2列目のマスに b 、1行目の3列目のマスに c を入れる。2行目以降の2列目のマスには、Kさんが作った問題と同様に数をそれぞれ入れる。2行目以降の3列目のマスには、1つ上の行にある2列目と3列目の数の和に、その行の1列目の数を掛けたものを入れる。例えば、 $a=2, b=3, c=1$ のとき、2行目の2列目には6が入る。2行目の3列目のマスには、1行目の3と1行目の1の和4に、1行目の2を掛けた8が入る。

$a=2, b=3$ のとき、2行目の3列目のマスを y 、4行目の3列目を z とする。 $z-y$ は6の倍数になることを示しなさい。ただし、 c は自然数とする。

図2

	1列目	2列目	3列目
1行目	a	b	c
2行目	a		y
3行目	a		
4行目	a		z
			⋮

(2) [先生が作った問題]について、Kさんは次のように考えた。

次の□の中の「22」から「29」に当てはまる数字をそれぞれ答えなさい。

[Kさんの考え]

y, z を c を用いて表そう。まず、 $y = \boxed{22}c + \boxed{23}$ である。

また、3行目の3列目の数を w とすると、 $w = \boxed{24}c + \boxed{25} \boxed{26}$ となる。

よって、 $z = \boxed{27}c + \boxed{28} \boxed{29}$ であるので、

$z - y = 6(c + 11)$ となり、 $c + 11$ は整数なので、 $z - y$ は6の倍数である。

3 右の図1で、点Oは原点、曲線lは

関数 $y = ax^2$ のグラフである。

3点A, B, Cはどれも曲線l上の点であり、
x座標は順に4, 2, -6である。

xの値が2から4まで増加するときの変化の割合が $\frac{3}{2}$ であるとき、次の問いに答えなさい。

(1) xの変域が $-6 \leq x \leq 2$ のときのyの変域は

である。

にあてはまるものを以下の ~ のうちから1つ選び、その番号を答えなさい。

$0 \leq y \leq 9$

$1 \leq y \leq 9$

$-9 \leq y \leq 0$

$0 \leq y \leq \frac{9}{2}$

(2) 右の図2は、図1において、曲線l上の点でx座標が-2である点をDとし、直線ABと直線CDの交点をEとしたものである。

このとき、次の 中の「31」から「38」に当てはまる数字をそれぞれ答えなさい。

(ア) 点Eの座標は $\left(-\frac{\text{31}}{\text{32}}, -\frac{\text{33} \text{ 34}}{\text{35}} \right)$

である。

(イ) 四角形CDBAと三角形DEBの面積をそれぞれS, Tとし、 $S : T$ を最も簡単な整数の比で表すと、 $S : T = \text{36} \text{ 37} : \text{38}$ である。

図1

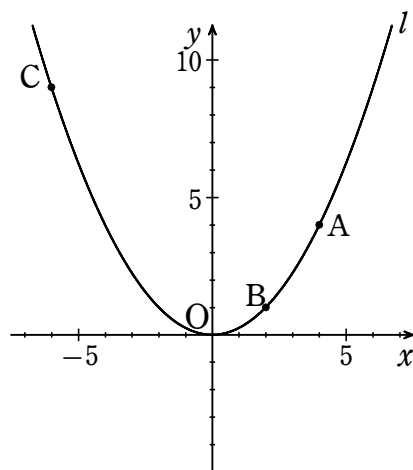
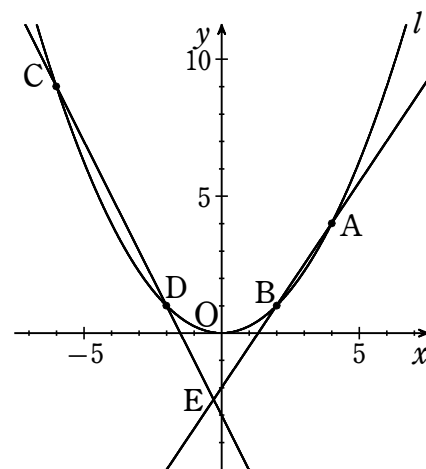
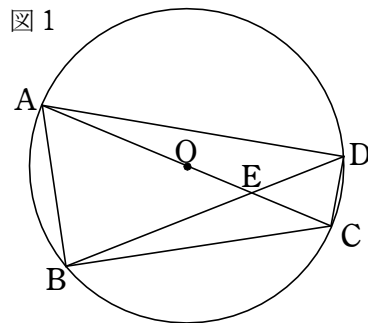


図2



4 右の図1で、点Oは線分ACを直径とする円の中心である。また、2点B, Dは円Oの周上の点であり、線分ACと線分BDの交点をEとする。このとき、次の問いに答えなさい。



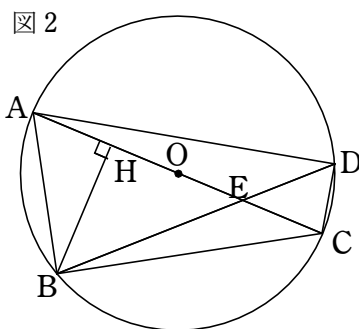
(1) 図1において、つねに 39 が成り立つ。

39 にあてはまるものを以下の 0 ~ 3 のうちから1つ選び、その番号を答えなさい。

- 0 $AE : EC = BE : ED$ 1 $AO : OE = CE : EO$
 2 $AB : DC = AD : BC$ 3 $AE : EB = DE : EC$

(2) 右の図2は、図1において、点Bから線分ACに垂線BHを下ろしたものである。

OE=1 のとき、次の(ア), (イ)に答えなさい。



(ア) 円Oの半径をaとする。2つの線分の長さの積 $BE \times ED$ をaを用いて表すと 40 となる。

40 にあてはまるものを以下の 0 ~ 3 のうちから1つ選び、その番号を答えなさい。

- 0 $2a-1$ 1 a^2-1 2 $2a-2$ 3 a^2-2

(イ) $BE=3\sqrt{5}$, $ED=\sqrt{5}$, $CD=1$ のとき、 $BH = \frac{41\sqrt{42}}{43}$ である。

□の中の「41」から「43」に当てはまる数字をそれぞれ答えなさい。

5 右の図1に示した立体 $ABC-DEF$ は、 $AB=\sqrt{2}$ 、 $\angle ABC=\angle ABE=\angle CBE=90^\circ$ の三角柱である。

この立体を、3点 B, D, F を通る平面で切り、残った2つの立体のうち、頂点 A を含む方の立体を立体 P とする。また、この切り口が1辺の長さが2の正三角形となったとき、次の問いに答えなさい。

(1) 次の 中の「44」から「47」に当てはまる数字をそれぞれ答えなさい。

(ア) $AF=\sqrt{\text{44}}$ である。

(イ) 立体 P の体積は $\frac{\text{45}\sqrt{\text{46}}}{\text{47}}$ である。

(2) 右の図2は、図1において、線分 AC の中点を G とし、立体 P を3点 B, G, D を通る平面で切った場合を表している。

頂点 A から平面 BGD に下ろした垂線の長さは $\frac{\sqrt{\text{48}}}{\text{49}}$ である。

中の「48」, 「49」に当てはまる数字をそれぞれ答えなさい。

図1

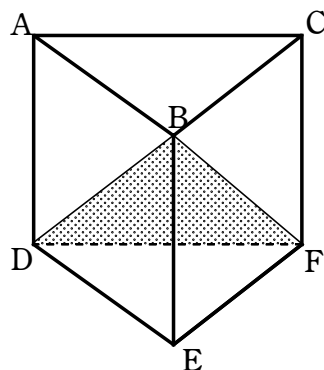


図2

